

(第2号様式)

陽明第 3187 号
令和5年 3月16日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立陽明高等学校
沖縄県立陽明高等支援学校
校長 宮 里 哲
(公印省略)

令和4年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和5年2月10日付け教県第1995号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和4年7月15日	場所	本校会議室	出席 状況	評議員5名、職員9名
第2回	日時	令和5年1月13日	場所	本校会議室	出席 状況	評議員4名、職員9名
第3回	日時	令和5年3月16日	場所	本校会議室	出席 状況	評議員4名、職員9名

2 学校評議員に求めた事項

- ・学校経営方針をもとにした教育活動全般(重点努力目標6項目)に関する評価及び助言
①希望進路の実現、②規範意識の育成、③文武両道による学力向上、④授業力の向上
⑤学校の活性化、⑥信頼される学校づくり
- ・新校舎改築の諸課題(廃棄物や交通安全、体育施設改築等)に関する助言
- ・教職員の働き方改革に関する助言

3 学校評議員の意見

- ・高等学校と高等支援学校のインクルーシブ教育は教育課程上でどのように行われているか説明が欲しい。
- ・福祉の場でも消費者教育の充実が求められている。成人年齢の引き下げもあるので、高校1年から計画的に進めて欲しい。
- ・学校の活性化にむけ、部活動の活動場所の確保にも努めて下さい。
- ・転出生徒の多さと現2年生の勤怠面等で気になります、子どもの居場所づくり事業にも関わっていますので、不登校で課題のある生徒に活用できる場を提供できたらと思います。
- ・「地域の子は地域で守り育てる」の機運醸成のため、高校生の協力を得ながら子供たちの活躍できる場を増やしていきたい。

4 学校運営に反映した事項

- ・コロナ禍で少しでも生徒のため、工夫しながら行事を開催した。
- ・単位履修生及び休学生徒など、支援を要する生徒に対して就学継続に向け、関係機関の連携を得ながら粘り強く指導を行うことができた。
- ・高校と高等支援との共同学習の成果を実践発表会において発表を行った。
- ・生徒のキャリア教育の充実に向け、地域交流授業や高等支援の介護入門研修を実践できた。

5 課題

- ①支援を要する生徒対応について、関係機関及び職員の共通理解を得ながら就学の継続に取り組む必要がある。特に勤怠状況の改善のため、コロナ対応が緩和された次年度は迅速な対応が必要である。
- ②学校評価に関する生徒・保護者及び職員間の理解を図りながら回答率をあげる必要がある。
- ③新校舎への移転に伴い防災危機管理マニュアル等を更新し、職員生徒の対応強化を図る必要がある。